細胞膜と細胞、ヘマクリットス細胞から、ゼータ関数との分解過程の数式

Masaaki Yamaguchi

以下は、ヘマクリットス細胞から、切断としての細胞を取り出す方程式である。

$$\pi(\chi, x) = \oiint_M \chi(x)[dI_m] = \int_M \chi(x)[dI_m]$$

$$^t\oiiint \mathrm{cohomD_\chi[I_m]}$$

$$[Df] = \int_M f(x)dx_m$$

これらは、超関数としての D-brane を一次独立として、ゼータ関数と量子群へと分ける。

$$||ds^2|| = \int delta(x)f(x)dx$$

$$D(\chi, x) = \pi \int r^2 dr$$

$$D(\chi, x) = \pi \int r^2 dr$$

父方と母方への遺伝子の対を一次独立で、ゼータ関数として求める。それらも、量子群から導かれる。

$$L(s) = \oiiint (\Delta, x^\nabla)^{\oplus L}$$
$$= (\chi^\nabla)^{\otimes L}$$

$$\bigoplus \nabla M_-^+ = {}^t\oiiint_{D(\chi,x)} \mathrm{cohom}[I_m]$$

３次元多様体を接線でゼータ関数として求めて、その均配を求めると、５次元多様体となる。

$$\bigoplus \nabla M_-^+ = \sum a_k f^k / \zeta(s)$$

$$\Psi = \frac{\nabla_i \nabla_j \tau}{\nabla \chi}[I_m]$$

$$\frac{[I_m]}{d\chi} \to [\Psi^{\nabla}]|_{I_m}$$

$$\begin{pmatrix} \cos\theta & -\sin\theta \\ \sin\theta & \cos\theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

$$= \lim_{\theta to 0} \begin{pmatrix} \cos\theta \\ \sin\theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \theta & 1 \\ 1 & \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \sin\theta \\ \cos\theta \end{pmatrix}$$

ベッチ数を同値類に大域的微分にして、不変量を求めて、そのエントロピー値を 1 変数を大域的微分として、不変量にして、まとめて、ゼータ関数を宇宙と異次元に分ける。

$$\pi(\chi, x) = \oint\!\!\!\iiint_{D(\chi,x)} \mathrm{Hom}(\chi, x)[I_m]$$